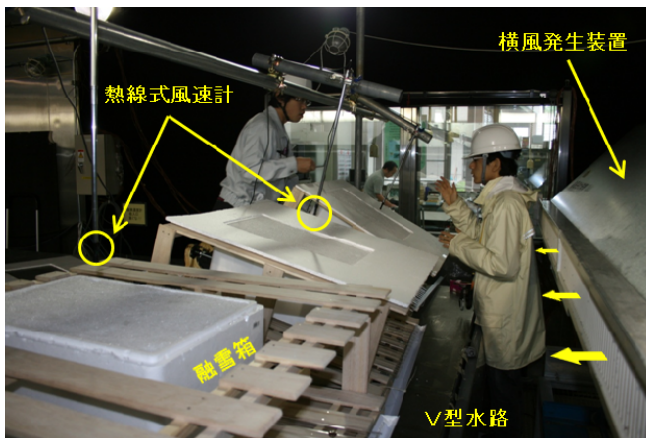
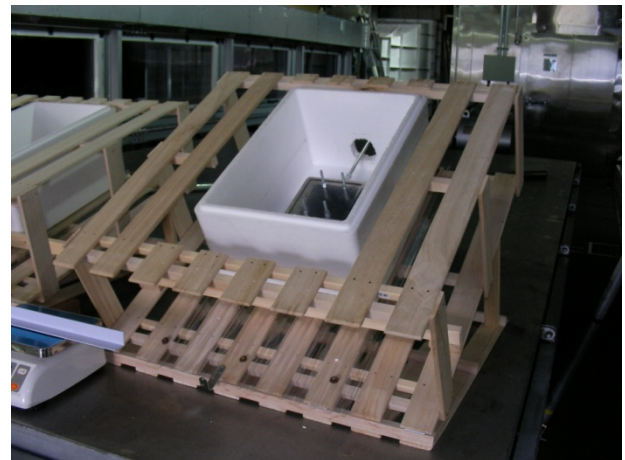


■ 模型斜面を用いた強風時の融雪実験 ■

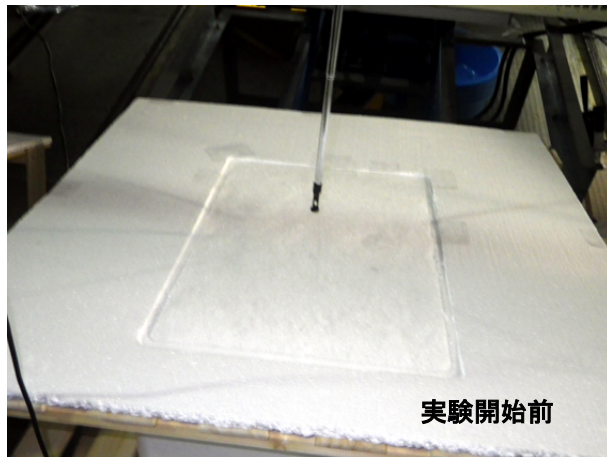
強い風が吹くと急速に融雪が進行し、雪崩などの雪氷災害や融雪洪水などの水象災害、さらに地すべりなどの土砂災害を発生させます。しかし、山間地における観測施設が少ないことや、極端気象現象の発生確率が低いこともあり、強風時の融雪特性は良く分かっていません。このため、(独)防災科学技術研究所と共同で模型斜面を用いた室内融雪実験を行いました。



融雪実験の準備状況傾斜させた融雪箱と横風発生装置



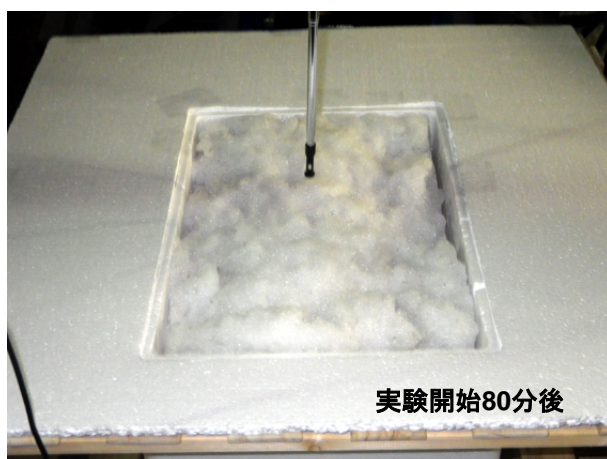
斜面傾斜30°の融雪装置
(融雪箱にはラボジャッキを装着し、雪面の高さが一定になるような工夫がされています。)



実験開始前



融雪箱に雪を充填しているところ
(月山から残雪を採取し、実験に使用しました。)



実験開始80分後

積雪面上の凹凸の発達状況

(気温14°C、風速10m/s、傾斜15°で実験を行ったところ、融雪強度が大きくなりました。積雪面に凹凸が発達したためと考えられます。)



融雪箱に雪を充填しているところ
(気温7.0°C、風速10m/sの実験はさすがに寒く、防寒服を着て各種の計測を行いました。)